

1. 分類コードの名称

分類コードの名称をファイルで指定できるようにしました。

分類コードの名称はインストールフォルダの DMCodeName.csv で設定しています。名称を追加・変更される場合、インストールフォルダの下にフォルダ「def」を作成し、そこにこのファイルのコピーを置いて編集してください。GeoCoach3D 起動時には次の優先順序でファイルをリードします。

(1) C:\Program Files\GeoCoachSystems\GeoCoach3D\def\DMCodeName.csv

(2) C:\Program Files\GeoCoachSystems\GeoCoach3D\DMCodeName.csv

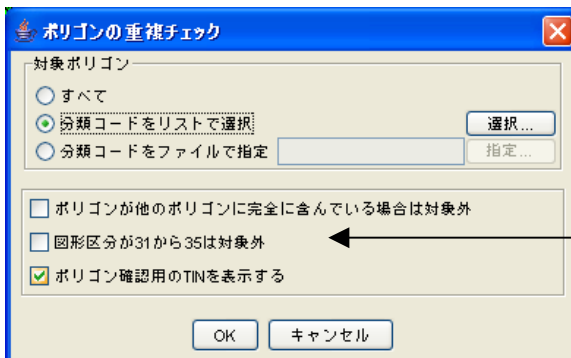
この CSV ファイルの内容は、一行目がヘッダで、2行目からがデータです。空白行は読み飛ばします。

列	型	内容
1	整数	分類コードで4桁の整数
2	文字列	名称

	A	B
1	分類コード	名称
2	1100	行政界の未分類
3	1101	都府県界
4	1102	北海道の支庁界
5	1103	都市・東京都市の区界
6	1104	町村・指定都市の区界
7	1106	大字・町・丁目界
8	1107	小字界
9	1110	所属界
10	1111	行政区の代表点
11		
12	2100	道路の未分類
13	2101	真幅道路(街区線)
14	2102	軽車道
15	2103	徒歩道
16	2106	庭園路等
17	2107	トンネル内の道路
18	2109	建設中の道路

2. ポリゴンの重複チェック

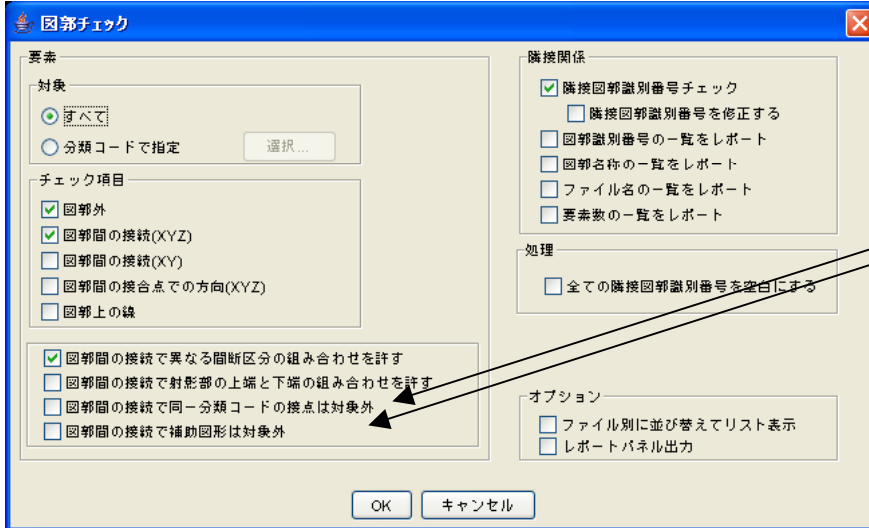
[チェック]-[ポリゴンの重複チェック]で、図形区分が31から35までの要素をチェック対象外にするオプションを追加しました。



3. 図郭チェック

[チェック]-[図郭チェック]で、地物の図形がたまたま図郭線上で切れている場合を除外するオプションを追加しました。また、図形区分が補助図形の場合、対象外とするオプションも追加しました。

図郭関係のチェックです。複数の DM データファイルが開いてある場合、図郭間の接続チェックが使えるようになります。



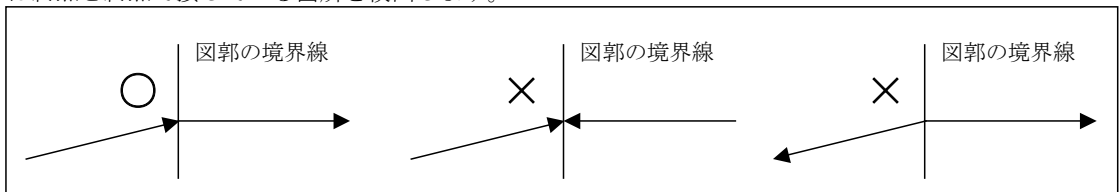
【対象】 チェック項目の対象を分類コードで指定します。

【図郭外】 面と線、点、円、円弧、注記要素について図郭の外に出ている点をリストアップします。

円、円弧は中心座標のみを、注記は代表点の座標値をチェックします。

【図郭上の線】 面と線要素について図郭の上ののっている線分をリストアップします。

【図郭間の接合点での方向(XYZ)】 線要素について端点が図郭線上にあり、隣接する図郭の要素の端点と XYZ 座標が一致していて、点列の方向が一致していないケースをリストアップします。つまり、点列の始点と始点あるいは終点と終点で接している箇所を検出します。



【図郭間の接続(XYZ)】 線要素について隣接する図郭で切れている端点をリストアップします。

XY 座標は一致していても、Z 値が異なる場合、リストアップします。

閉じている線要素はリストアップの対象外です。

【図郭間の接続(XY)】 線要素について隣接する図郭で切れている端点をリストアップします。

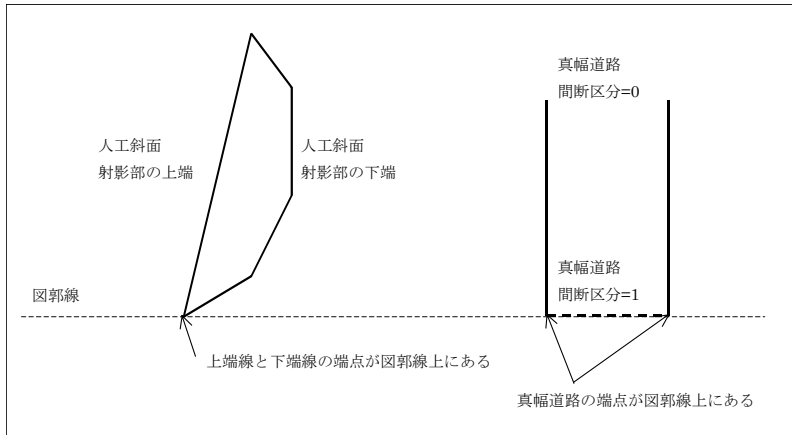
XY 座標は一致していれば、Z 値が異なっても、リストアップしません。

閉じている線要素はリストアップの対象外です。

【図郭間の接続で異なる間断区分の組み合わせを許す】 図郭間の接続において、隣の図郭の要素と図郭線上で接していて、間断区分が異なる場合、接続しているとみなします。OFF の場合、同一間断区分が接している条件になります。

【図郭間の接続で射影部の上端と下端の組み合わせを許す】 図郭間の接続において、隣の図郭の要素と図郭線上で接していて、図形区分が射影部の上端と下端の組み合わせの場合、接続しているとみなします。OFF の場合、同一図形区分が接している条件になります。

【図郭間の接続で同一分類コードの端点是对象外】 図郭間の接続において、ある線の端点が図郭線上にあり、同じ DM データファイルの同じ分類コードの線の端点も同じ位置にある場合、リストアップしません。



- 【**図郭間の接続で補助図形は対象外**】 図郭間の接続において、図形区分が補助図形の線はリストアップしません。
- 【**隣接図郭識別番号チェック**】 図郭レコード(c)の隣接図郭識別番号について、隣接する図郭の図郭識別番号との違いがあれば[チェックリスト]にリストアップします。隣接する図郭のDMデータファイルは、図郭の座標で判定します。
- 【**隣接図郭識別番号を修正する**】 図郭レコード(c)の隣接図郭識別番号について、隣接するDMデータファイルの図郭識別番号との違いがあれば、隣接するDMデータファイルに合わせます。
- 【**図郭識別番号の一覧をレポート**】 開いているDMデータファイルについて、図郭レコード(a)の図郭識別番号を[レポート]パネルにリストアップします。図郭の位置関係と合うよう、CSVファイル形式でレポートしますから、その部分をコピーし、CSVファイルにすれば表計算ソフトでみることができます。
- 【**図郭名称の一覧をレポート**】 開いているDMデータファイルについて、図郭レコード(a)の図郭名称を[レポート]パネルにリストアップします。
- 【**ファイル名の一覧をレポート**】 開いているDMデータファイルについて、ファイル名を[レポート]パネルにリストアップします。
- 【**要素数の一覧をレポート**】 開いているDMデータファイルについて、各ファイルの要素数を[レポート]パネルにリストアップします。

要素数				
			1099,	255,
	3839,		1298,	2530,
2326,	11638,	116,	401,	5356,
				409,

ガイド レポート チェックリスト 確認リスト

- 【**ファイル別に並び替えてリスト表示**】 [チェックリスト]の表示をファイル名順に並び替えます。
- 【**全ての隣接図郭識別番号を空白にする**】 開いているファイルの図郭レコード(c)の隣接図郭識別番号をすべて空白にします。

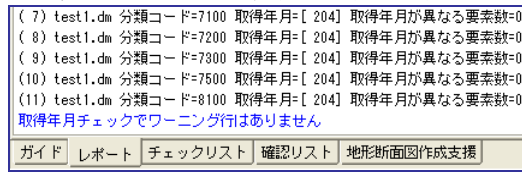
4. グループヘッダレコード

[チェック]-[グループヘッダレコード]に、要素レコードの精度区分の下位桁をチェックおよび変更する機能を追加しました。

DMデータファイルのグループヘッダレコードの取得年月と数値化区分のチェックと変更を行います。

【取得年月チェック】各グループヘッダレコードの取得年月を[レポート]パネルに表示します。

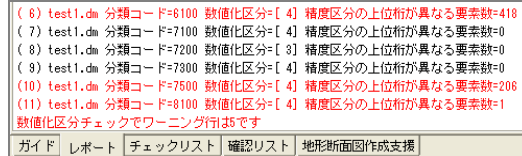
また、そのグループに属する要素の要素レコードで取得年月が異なる個数をレポートします。



【取得年月を全て変更する】すべてのグループヘッダレコードの取得年月を変更します。

また、同時にすべての要素について要素レコードの取得年月も変更できます。

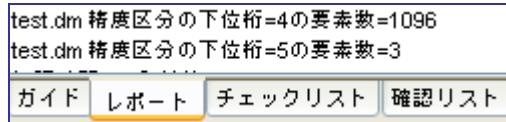
【数値化区分チェック】各グループヘッダレコードの数値化区分を[レポート]パネルに表示します。また、そのグループに属する要素の要素レコードで精度区分の上位桁が異なる個数をレポートします。



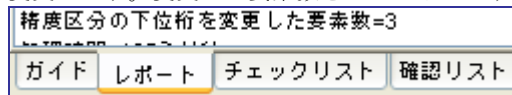
【数値化区分を全て変更する】すべてのグループヘッダレコードの数値化区分を変更します。

また、同時にすべての要素について要素レコードの精度区分の上位桁も変更できます。

【精度区分の下位桁チェック】全ての要素について、精度区分の下位桁の値をカウントし、それぞれの値の要素数をレポートします。



【精度区分の下位桁を全て変更する】全ての要素について、精度区分の下位桁の値を指定した値に変更します。変更した要素数をレポートします。



5. 注記の編集

注記の編集ダイアログで、字隔が0も入力できるようにしました。

